



報 告 書

REPORT

大阪府立産業技術総合研究所



Technology Research Institute of Osaka Prefecture



報告書

No. 02-02165

依頼者 住 所：大阪市生野区巽南4丁目6-23

会社名（氏名）：株式会社旭東

様

試料名（依頼者の申出による呼称）

オゾン処理前後の落下菌テスト用標準寒天培地

2点

本所に提出された試料につき試験した結果を下記のとおり報告いたします。

平成18年9月7日

大阪府立産業技術総合研究所



試験項目

微生物接種培養試験・試料調整

試験法

持ち込まれたオゾン処理前後の落下菌テスト用標準寒天培地を35℃で48時間培養後、生じた細菌コロニー（一般細菌）を観察するとともに写真撮影を行った。

試験結果

検体

室内オゾン処理前 テーブル・棚・デスク上 1時間暴露培地

室内オゾン処理後 テーブル・棚・デスク上 1時間暴露培地

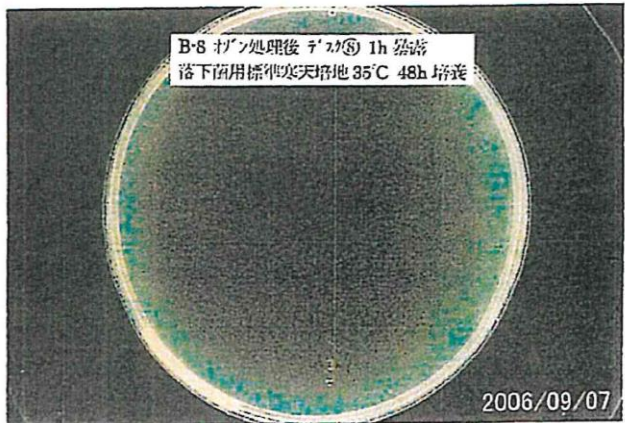
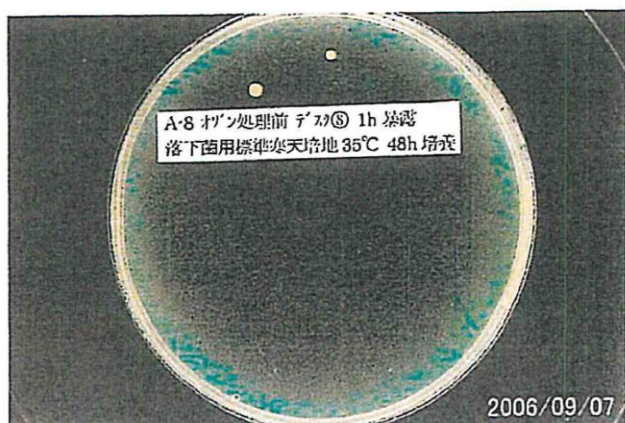
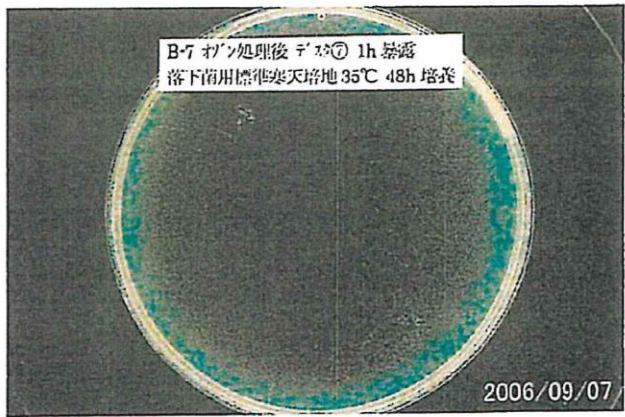
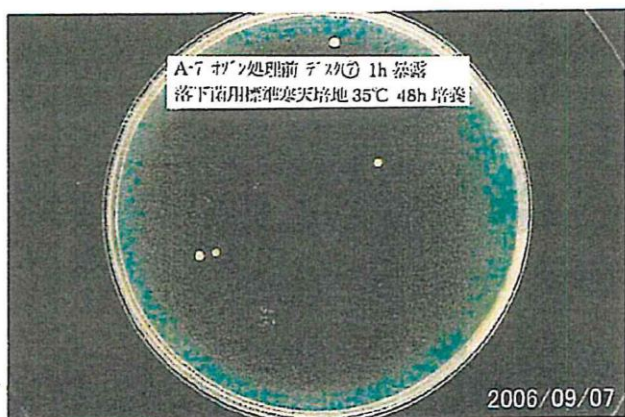
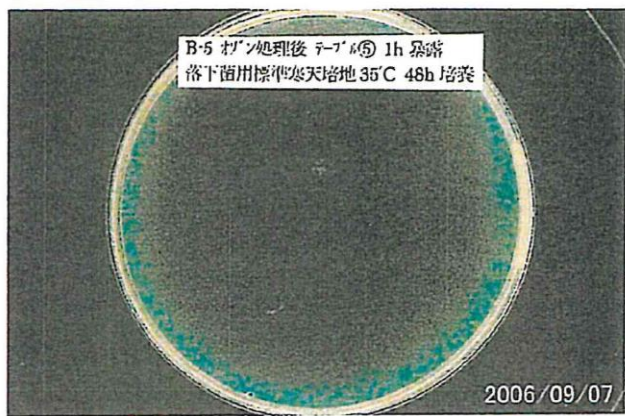
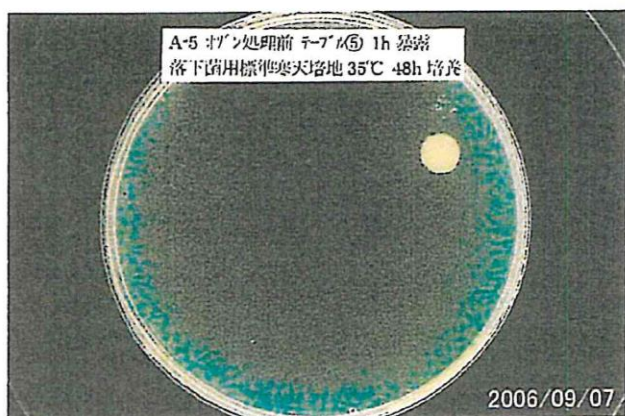
試験結果

コロニー有り（落下一般細菌有り）

コロニー無し（落下一般細菌無し）

次頁の写真参照

2枚の内 1枚目





報 告 書

No. 02-00618

依頼者 住所・会社名：大阪市生野区巽南4丁目6-23

株式会社旭東

殿

試料名（依頼者の申出による呼称）

空気除菌・脱臭器

1 点

本所に提出された試料につき試験した結果を下記のとおり報告いたします。

平成 17 年 6 月 2 日

大阪府立産業技術総合研究所長



試験項目：

化学試験（繊維系消臭及びガス吸着機構評価試験）

その他の化学分析：一般的なもの（定量）

試験方法：試験はすべて 20℃-65%RH の恒温恒湿室内にて行った。

消臭試験：10L のテドラーバッグに空気除菌・脱臭器1 個を入れ密閉し、空気 3L とホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、アンモニア、硫化水素ガスを初発濃度 50ppm になるようにそれぞれ注入した。

空気除菌・脱臭器を OZ1 モードで運転開始後、1 時間後と 24 時間後のテドラーバッグ内のガス濃度をガス検知管（ガステック社製；ホルムアルデヒド No.91；測定範囲 2-100ppm、検知限度 0.5ppm、アセトアルデヒド 92M；測定範囲 2.5-100ppm；検知限度 0.25ppm、アンモニア 3La；測定範囲 2.5-200ppm；検知限度 0.5ppm、硫化水素 4LT；測定範囲 0.1-4ppm；検知限度 0.05ppm）を用いて測定した。

試験結果：

	臭気ガス	1 時間後	24 時間後
空試験	ホルムアルデヒド	48ppm	42ppm
	アセトアルデヒド	50ppm	42ppm
	アンモニア	47ppm	40ppm
	硫化水素	50ppm	40ppm
空気除菌・脱臭器	ホルムアルデヒド	40ppm	15ppm
	アセトアルデヒド	30ppm	0.25ppm 未満
	アンモニア	6ppm	0.5ppm 未満
	硫化水素	0.05ppm 未満	0.05ppm 未満

1 枚の内 1 枚目

JQA ファイリング番号 KL25210084

試験報告書

依頼者名	株式会社 旭東
住 所	〒544-0015 大阪府大阪市生野区巽南4丁目 6-23
試験品名	除菌脱臭機 グリーンメイトスタイルプロ
型 名	KT-OZF-03IKS
定 格	AC100V 0.2A 50/60Hz 20W
試験内容	別紙内容に基づく試験
試験場所	一般財団法人 日本品質保証機構 北関西試験センター 〒562-0027 大阪府箕面市石丸一丁目7番7号
試験結果	添付の試験詳細のとおり
試験年月日	2021年10月28日 ~ 2021年11月24日

発行日: 2021年11月30日

一般財団法人 日本品質保証機構

北関西試験センター

家電機器試験課 課長 崎枝邦史郎

〒562-0027 大阪府箕面市石丸一丁目7番7号

・試験に適用した規格、試験条件及び試験方法等は、依頼者の申込みに基づいたものです。
・この試験報告書は、試験用に提供された試験品に対して試験を実施した結果を記述したものであり、同一型名の他の販売用製品等に適用されるものではありません。
・この報告書の内容の、消費者向けの宣伝等を目的とする利用、転載、一部分の複製を行うときは、事前に当機構の承認が必要です。なお、内容の一部分の複製を行うときは、書面による承認が必要です。

JAPAN QUALITY ASSURANCE ORGANIZATION

[試 験 詳 細]

試験品:

1. 試験項目: 空気清浄機の個別規格 (JIS C 9335-2-65 32 項) を準用し
下記の条件にて測定
2. 試験条件及び製品動作モード: 室温25℃、湿度50%
測定ケース 2. 5m × 3. 5m × 3. 0m
3. 使用測定器: 荏原実業株式会社製「EG-3000」

試験品: KT-OZF-03IKS

測定条件:

入力電源 : AC100V 60Hz

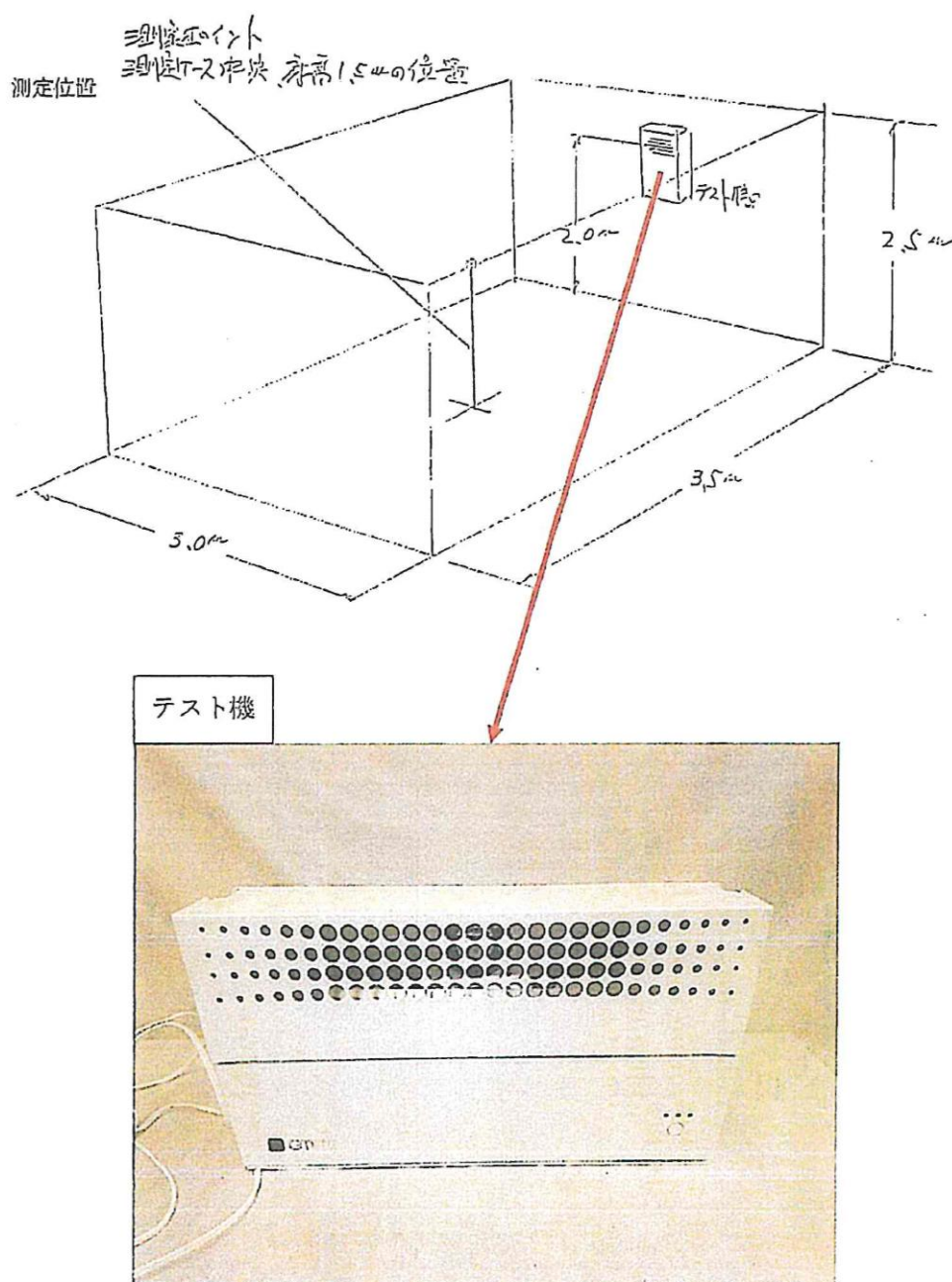
製品動作モード

試験品運転コース: 「風量 強」

測定位置 : 図1参照

測定位置

図-1



4. 試験結果

運転モード:「風量 強」

測定時間	測定値 [ppm]
試験前	0.000
24時間後直後	0.574
24時間最大	0.688

空間容積別換算値

オゾン発生量	32mg/h メーカー宣言値
運転モード	強

空間容積	26.25 m ³ (床横 3.0m×床縦 3.5m×高さ 2.5m) (試験空間容積)
最大濃度	0.688ppm 注:24 時間試験中の最大濃度

申請者依頼により、下記の計算式により換算値を記載した。

空間容積換算濃度値計算式：試験空間容積÷空間容積×試験結果値（24 時間最大値）

空間容積	369.6 m ³ (床面積約 35 坪 (115.5 m ²) ×高さ 3.2m) 約 70 畳
容量濃度	0.0488ppm

空間容積	184.96 m ³ (床面積約 17.5 坪 (57.8 m ²) ×高さ 3.2m) 約 35 畳
容量濃度	0.0976ppm

— 以 下 余 白 —

Green-Mate

空気除菌・脱臭器

REPORT

空気除菌脱臭器(株式会社旭東 グリーンメイト)の
坑鳥インフルエンザウイルス試験報告書

【試験実施者】

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

准教授 伊藤敬史

平成 24 年 6 月 28 日

空気除菌脱臭器(燐旭東 グリーンメイト)の
抗鳥インフルエンザウイルス試験報告書

【試験実施者】

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
(鳥取県鳥取市湖山町南 4-101)

准教授 伊藤啓史 

【試験実施期間】

平成 22 年 12 月 21 日～平成 24 年 4 月 27 日

【材料と方法】

1. 試験品

空気除菌脱臭器 (株式会社 グリーンメイト スペシャル KT-OZI-03)

2. ウイルス

鳥インフルエンザウイルス A/whistling swan/Shimane/499/83 (H5N3) を用いた。A/whistling swan/Shimane/499/83 (H5N3) は 1983 年に島根県で野生のユハクチョウから分離されたウイルスで、10 日齢発育鶏卵の漿尿膜腔内に接種して増殖させたものを試験に供した。

3. 空気除菌脱臭器の抗鳥インフルエンザウイルス試験

以下の手順により空気除菌脱臭器の抗鳥インフルエンザウイルス効果を測定した。

- 1) 空気除菌脱臭器の前面カバーを外し、2 台が向き合うように設置し (図 1, 2)、試験実施の 5 分以上前に作動 (運転切替スイッチ : OZ1) させた。
- 2) 滅菌 PBS で 10 倍希釈したウイルス液をオートクレーブで滅菌し乾燥させたろ紙 (5 cm×5 cm) にまんべんなく染み込ませた。
- 3) ろ紙を 2 台の空気除菌脱臭器の間 (UV が当たるような位置) に設置し、所定時間 UV を照射した (図 1, 2)。
- 4) 10 mL の抗生物質添加 PBS の入ったポリ袋に試験品を入れ、ウイルスを洗い出した。
- 5) 洗い出し液を 10 倍階段希釈し、10 日齢発育鶏卵の漿尿膜腔内に接種した。
- 6) 接種発育鶏卵を 37°C、2 日間培養した後、赤血球凝集 (HA) 試験により漿尿膜腔でのウイルス増殖の有無を確認し、ウイルス捕集液中のウイルス感染価を Reed and Muench の方法により算出した。なお、試験は 3 回行い、再現性を確認した。

3. 結果

試験結果を表 1 に示した。

空気除菌脱臭器の UV を照射させたろ紙におけるウイルスの感染価は照射時間 10、5 および 1 秒でそれぞれ $10^{-0.5} \text{EID}_{50}/0.1 \text{ mL}$ 以下、 $10^{0.5} \text{EID}_{50}/0.1 \text{ mL}$ 以下および $10^{2.5} \sim 10^{2.6} \text{EID}_{50}/0.1 \text{ mL}$ に低下した。一方、UV 照射を行わなかったろ紙におけるウイルス感染価は $10^{3.8} \sim 10^{4.5} \text{EID}_{50}/0.1 \text{ mL}$ であった。したがって、各照射時間においてウイルス感染価は、最大で 1/10 万 (10 秒)、1/1 万 (5 秒) および 1/100 (1 秒) 低下した。

表 1 空気除菌脱臭器の UV 照射による抗鳥インフルエンザウイルス効果

UV 照射時間	ウイルス感染価 ($\log_{10} \text{EID}_{50}/0.1 \text{ mL}$)		
	試験 1	試験 2	試験 3
10 秒	-0.5 [*]	-0.5	-0.5
5 秒	0.5	0.5	0.5
1 秒	2.5	2.5	2.6
照射なし (10 秒)	4.5	3.8	4.5

* 検出限界値：-0.5